



ランドセルをもらってとてもうれしそう



みんなで浴衣を着て、盆踊りで交流



運動会前に円陣を組んで、気合注入！



【トラキエット小学校】シェムリアップ州にある小学校で、「友好に関する覚え書」の交流拠点。児童数は約450人。写真は高校生と児童の様子。



運動会の様子

カンボジア体験記

昨年度に引き続き、平成30年度幸田町高校生カンボジア派遣事業が3月22日㊦～28日㊧に実施され、町内の高校生10人がカンボジア王国シェムリアップ州を訪れました。

今回の派遣事業に参加した高校生10人は、7月に行われた選考で選ばれ、夏から出発の日まで毎月2回の打合せを重ね、シェムリアップ州にあるトラキエット小学校で開催する運動会の種目や文化交流会の内容について、自分たちで考え、実行しました。運動会では、学年ごとに、かけっこ、玉入れ、しっぽ取りなどの競技を決め、難しい競技は前日に児童を集めて予行練習をしたことで、当日は大いに盛り上がりました。また文化交流会では、茶道の体験や折り紙、現地の児童に浴衣の着付けをして、一緒に新幸田音頭などの盆踊りで交流し、児童らとさらに仲良くなりました。そのほかにも、トラキエット小学校5年生とアンコール・ワットなどを見学する修学旅行、児童数約6千人の同州ワット・ポー小学校や現地の日本語学校生徒とも盆踊りで交流を

派遣事業の行程

日程	内容
3/22㊦	朝、中部国際空港を出発／現地時間の夕刻にシェムリアップ空港着
3/23㊧	トラキエット小学校で翌日の運動会の準備／運動会種目の練習
3/24㊨	トラキエット小学校で運動会を開催／文化交流会(茶道、折り紙)を実施
3/25㊩	現地の児童と修学旅行(アンコール・ワット、アンコール・トム、タプローム寺院)／トンレサップ湖の水上生活見学
3/26㊪	トラキエット小学校で文化交流会(盆踊り)を実施／市内見学、現地日本語学校生徒との交流
3/27㊫	ワット・ポー小学校との交流／現地時間の夜にシェムリアップ空港発
3/28㊬	日本時間の朝に中部国際空港着

しました。また、高校生の皆さんは、カンボジアの児童らにプレゼントする物資を集めるため、自分たちで町内の出身小中学校および幸田高校などに協力を依頼し、収集・仕分け・現地での配布までのすべてを行ってくれました。

今回は、シェムリアップ州と幸田町の交流をさらに深めていただいた高校生10人に感想をお聞きしましたので、紹介します。

*派遣者の学年は、現在の学年で表記しています。



僕は、この派遣事業で自分たちが企画、準備してきたものが現地の子どもたちに喜んでもらえたことへの大きな達成感を感じました。準備の段階では難しいことも多く、苦しい思いもしましたが、現地の子どもたちの笑顔を見たらすべて吹っ飛び、今まで頑張ってきた本当に良かったと思えました。この事業に参加してから今までの間やってきたことすべてが僕を成長させてくれました。この事業で経験したことをこれから生かしていきたいです。



いわさき 希一 さん
(刈谷北高3年)



事業に参加して初めて、公用語がクメール語だと知りました。通訳さんは常に近くにいる訳ではなかったため、子どもたちと仲良くなれるか不安でしたが、ジェスチャーで一生涯懸命思いを伝えようとしたら想像以上に簡単に伝わりました。一緒に遊ぶ中で笑顔や感情を共有でき、より親密になり、皆で計画した運動会も楽しんでもらえました。「言葉ではなくても伝わる」。言語以上に相手の目線に立って真剣に伝えようとする姿勢が大事だと感じました。



みづら りょう た さん
(刈谷北高3年)



私は、カンボジアに行って感じたものがあります。それは、子どもたちの純粋な心です。私はこんなに純粋な人たちと生まれて初めて出会いました。彼らの邪念のない大きな黒い瞳を見て、心がきれいというのはどういう事なのか、分かった気がします。こんな貴重な体験ができた事に感謝しています。私は、ほとんどのことはすぐに忘れてしまいますが、一生、あの瞳を忘れることはないでしょう。



つづき まゆ さん
(幸田高2年)



僕が、この派遣事業で最も驚いたことは現地の子どもたちの積極的な姿勢です。派遣前、僕たちは何度も打合せやクメール語の勉強をしても、子どもたちが楽しんでくれる自信を持ってませんでした。しかし、子どもたちは僕たちに笑いかけたり、日本語で話してきたりと、自ら関わろうとしてくれました。子どもたちの姿を見て、自ら行動する大切さを実感しました。僕も、子どもたちに負けないよう、もっといろいろなことに挑戦したいです。



にわ たく み さん
(岡崎北高2年)



3月22日から7日間、カンボジアの子どもたちと運動会、文化交流、修学旅行とたくさんの事を経験させてもらいました。言葉が通じない中で、楽しくやっていたのか正直不安だらけでした。でも、私たちが笑うと子どもたちも笑顔で笑いかけてくれました。帰る時に子どもたちが泣いていて私も泣いてしまいました。この半年間辛くて大変な事もあったけど、子どもたちの笑顔が見れて本当にうれしかったです。またあのキラキラした笑顔を見たいです。



はちすか ゆうか
蜂須賀 佑香 さん
(幸田高2年)



私は、今回の派遣事業に参加して本当に良かったと思っています。この事業に参加する前、カンボジアは貧しい国だと思っていました。しかし、現地に行き、実際に子どもたちと交流をしてみて、その印象は全くなりました。子どもたちはいつも笑顔で接してくれて、私たちが自然と笑顔になれました。子どもたちのキラキラとした笑顔が、とても心に残りました。そして、この事業に参加して得たものはたくさんあるので、これからもカンボジアに関わりたいです。



ほんだ みお
本多 未旺 さん
(幸田高2年)



カンボジアでの経験は、心に響くものばかりでした。特に、修学旅行のバスレクで日本のクイズを出したときはとても盛り上がりました。席から身を乗り出して熱心に話を聞いてくれる姿、私たちが言ったことをノートに書いている姿がうれしかったです。何事にも一生懸命なカンボジアの子どもたちの姿はとても輝いていました。このような経験をすることができたこととても感謝しています。



みうら みわ
三浦 美和 さん
(安城高2年)

トラキエット小学校児童の感想

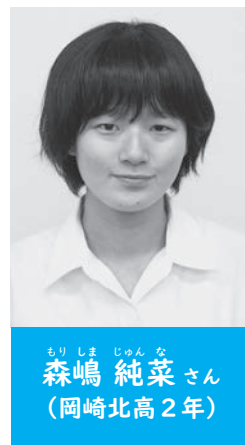
～愛知県幸田町の皆さまへ～

私は先生と学校を代表して御礼を伝えます。日本から、私たちの学校に来て、いろいろな競技をしてくれて、とても楽しかったです。どうもありがとうございました。そして、競技で勝った人にも負けた人にもプレゼントを配ってくれました。競技では勝つことも負けることもあります。私たちはとても元気が出ました。また私たちの学校に来て、そしていろいろな遊びをしましょう。皆さま、どうもありがとうございました。カンニャーより





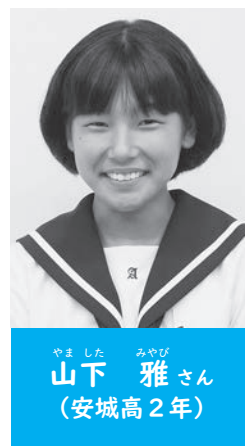
この派遣事業を通して、私の心は大きく成長できました。優しさと笑顔にあふれた愛くるしい子どもたちや現地の人と触れ合って、カンボジアが大好きになりました。皆さまの善意の物資を渡す時に「オーケン（ありがとう）」と手を合わせて受け取る子どもたちの姿が心に残っています。また、大切な仲間とこのような素晴らしい体験をさせていただいた事は、多くの皆さまのおかげで、私の人生の宝物です。本当にありがとうございました。



もりしま じゅんな さん
森嶋 純菜 さん
(岡崎北高2年)



今回の派遣事業で、自分の成長を感じることのできる場面が多くありました。特に私が企画運営を務めさせていただいた盆踊りでは、どのようにしたら子どもたちに楽しんでもらえるのかを何度も考えました。決して容易な役割ではありませんでしたが、子どもたちがキラキラとした笑顔で踊ってくれて、頑張ったかいがあったと感じました。今回学んだことを決して無駄にせず、今後にしっかりとつなげていきたいです。この経験は私の一生の宝物です。



やました みやび さん
山下 雅 さん
(安城高2年)



私は、カンボジア派遣に参加できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。何より子どもたちと言葉が通じなくても、楽しさや喜びを全員で共感できた時は、今までの大変だった事が吹き飛び感動しました。しかし、子どもが生活のために土産物の売り子をしている姿を見た時はとても心が痛みました。派遣事業は終わってしまいました。カンボジアの子どもたちの笑顔を忘れず自分ができることを見つけ、これからもカンボジアと関わり続けたいです。



やまの りお さん
山野 莉緒 さん
(光ヶ丘女子高2年)

昨年度の派遣メンバーの4人が、カンボジア支援サークル「テンピー」を発足！

昨年度のカンボジア派遣事業に参加した高校生のうちの幸田高校生4人が、「帰国後もカンボジアのために自分たちでできることを続けていきたい」という思いで、カンボジア支援サークル「テンピー」(クメール語で「共に」という意味)を立ち上げました。テンピーの4人は、募金活動や町内の小学校でカンボジアについての講演をしたりしていましたが、今年度も実費でカンボジアを来訪し、文化交流(かるた)や、トラキエット小学校の同敷地にあるトラキエット中学校と交流をしました。そして、今年度の派遣メンバーから新たに5人がテンピーに加入し、今後も引き続き支援活動をしていくことになりました。



問合せ
☎(0564)62・1111(内線332)
FAX(0564)63・5139
企画政策課政策情報グループ